

(様式2)

2021年度 教育活動活性化提案事業 実施結果報告書

令和4年3月31日

福岡女子大学学長 殿

申請者

所属名 国際文理学部 食・健康学科

職名 教授

氏名 新開章司

印

事業名 (テーマ)	<input type="checkbox"/> 文理統合 <input type="checkbox"/> 国際性 <input type="checkbox"/> リーダーシップ <input type="checkbox"/> 伝統・歴史・感性 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ※いずれかにチェック☑を入れてください。		
事業実施者及び 事業分担者	新開章司	大学院生及び 学外協力者等	
活動内容及び成果(必要に応じ資料、写真等を添付すること) ※この欄の記載は、大学ホームページ等にそのまま掲載する予定です。 (活動内容) 本プログラムは、福岡女子大学(「地域ブランド論」履修者)とJA筑前あさくら(秋月観光農業部会)が連携し、地域が直面する課題について、学生が授業内での講義を通して知識を深め、現場での作業体験や視察および情報収集を通して理解を深めるとともに解決策を検討し、最終的には課題解決策の提案を行うものである。 プログラムの内容としては、①講義、②現場視察及び農業体験、③地域の専門家による講演および農業者とのディスカッション、④学生による課題解決策の提示(プレゼンテーション)、⑤復興支援イベント(農産物販売)を計画していた。 しかしながら、新型コロナウイルスによる感染症の流行の影響を受け、現地への対面での訪問は断念せざるを得なかった。その代わりに、生産現場の様子や農村の風景を伝える動画をほぼ毎週送っていただき(合計23本)、現場の活動への理解を深め、また遠隔授業に参加いただき、農業者との交流を深めた。対面での訪問はできなかったものの、より頻繁な交流を行うことができ、相互の理解は対面での交流に勝るとも劣らないものであったと思われる。 (成果) 本年度も前年度に引き続き、コロナ禍の影響を受けたため、現場での体験や対面での交流を行うことはできなかった。 しかしながら、オンラインによる交流を深め、対面での交流に勝るとも劣らない成果を実現できたと考える。具体的には、生産現場の様子(動画)を毎週のように生産現場から送っていただき、学生はリアルタイムで梨の生育を感じることができた。また、期間中には病害虫や雑草とのたたかいがあることや、災害に対応する生産者の方々のご努力を身近に感じることもできた。また、生産者の方々にはオンラインで講義にも参加いただき、質問に答えていただき、またさまざまな情報提供をしていただいた。 それらの交流を踏まえ、学生は「観光梨園のマーケティング戦略」を検討し、プレゼンテーションにまとめ、発表した。このようなオンラインの交流を通して、学生は多くを学ぶことができ、また、地域や梨への関心が高まったことがアンケートなどからも確認できた。 コロナ禍において、このような学習成果につなげることができたことは、現場の生産者の方々のご厚意・ご支援によるものである。深く感謝の意を表したい。			